

続ミドルクライシス(ミドルの三気なし)

企業経営漫談士 岡野実空

先の「ミドル・クライシス」シリーズ2回目で取り上げた、ミドルの「よ・わ・み」。我が団塊世代なら、恐らく発言者に食ってかかるでしょうが、今年の忘年会で蒸し返してみても、皆さんミドルからは目立った反発なし。それどころか、「そうなんです」とすんなり認められ、すっかり拍子抜け。しかし聞けば聞くほど、その事情に納得。社会でなにかコトが起きるたびに、なにかとイエローカードの対象が増え、いま企業のミドルは雁字搦め。そんな中でも、今年最後のコラムは、敢えて皆さんの「三気なし」に喝を！なぜなら、ミドルの活躍なくして企業の発展なし！！日本の将来なし！！だから。

その1: 元気なし

平成サラリーマン川柳の傑作、「無礼講、会社に戻れば無礼者」も、今は昔。いまや宴会で上司が部下にご機嫌を取り、お酌をする時代。パワハラやセクハラの発生を恐れ、任意参加、しかも世代別のグループ編成の忘年会なら、いっそのことファミリー・パーティーにしたらと言いたくなります。

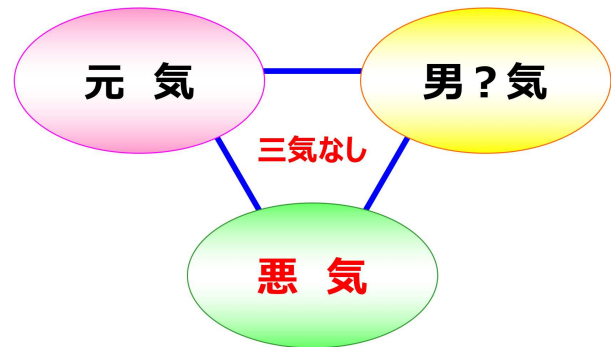
しかしそんな中でも、ミドルは歯を食いしばって会社で元気な姿を見せなければなりません。激戦が続くビジネス社会で、小隊長がしょんぼりしている兵卒の意気が上がらないから。いまや死語になりかけている「空元気」を出し、「あたま」(明るく・楽しく・前向き)で行きましょう。

その2: 悪気なし

企業人を卒業し、一匹狼的に仕事をするようになって目についたのは、気づかないうちに社内の論理を優先している企業人の姿勢や甘え。例えば、後から入った社内会議のために、外部との先約の変更を依頼するなどは日常茶飯事です。クレームなど自社の信用に関わる重大な場合を除き、それは外部の信用を毀損する行為ですが、「悪気なし」に繰り返されています。当人に、社内会議よりあなたの用件は優先度が低いという通告をしている自覚は一切ありません。また社外のイベントなども同様で、平気で直前キャンセルを起こしています。

私たちの仕事柄、当人だけでなく、その上司にもそれらの行為に警鐘を鳴らすことがあります。その答えは決まって、「悪気がないので、許してやってください」。しかし意識せずやっているからこそ、質が悪いのです。その典型は、パワハラ、セクハラ。実は「悪気ない」行為こそ、厳密に再発防止に努めなければならないのです。皆さん、自分も含め、日常「悪気なく」やっていることの棚卸しを！

E-18 続ミドルクライシス「三気なし」



その3: 男気なし

以上の流れからいうと、いまや「男気」も NG ワードか？この類の言葉の解説では右に出るものがない「新明解国語辞典」によれば、それは「弱い立場に置かれた者が苦しんでいることを知りながら、黙って見逃すことができない気性」と定義されています。だとすると、いまやむしろ「女気」というべきか？何かにつけて責任逃れ、当事者意識なしの男性幹部の姿を、連日のように見ているミドルとして、真逆の行動を取るにはよほどの勇気がいられます。しかしそのとき、その背中を押すものは、前回まで取り上げてきた「ライフ・シフト」です。

それに関し、私が転職の意志を岳父に伝えたとときに受けた助言を忘れることはできません。それは、「やらないで後悔するより、やって後悔する方がよほどよい」という本質を突いたもの。まして今後、多くの社会人が複数の職業を経験することを前提に考えれば、前職で「やった後悔」は次の仕事の武器として大いに役立つのです。

本日は平成最後の大晦日。皆さんが、来年こそ、あるいは元号が変わったらと思っていることがありましたら、江戸の儒官・林羅山の故事に倣い、徐日(大晦日)に始めましょう。平成の林修先生も全く同じ考えです。やるなら、「今でしょ！」

平成30年12月31日 実空